

(電子メール施行)
農技第1095号
令和3年4月28日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察注意報 第1号を發表します。

県内のコムギ圃場において、うどんこ病の発生が確認されています。本県での発生は稀であるため発生状況の確認及び防除の遅れが懸念されます。コムギ圃場での発生状況に十分注意し、防除対策を徹底するようご指導願います。

令和3年度病害虫発生予察注意報 第1号

コムギうどんこ病の発生状況と防除対策について

- | | |
|------------------|--|
| 1 対象作物 | コムギ |
| 2 病害虫名 | うどんこ病 (<i>Blumeria graminis</i> f. sp. <i>tritici</i>) |
| 3 発生地域 | 県南部地域 (丹波地域を含む) |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 4月～5月 |
| 6 発生状況と今後の予想について | |

- (1) 4月22～23日に行ったコムギの巡回調査の結果、コムギうどんこ病(図1)の発生圃場率40%、発病茎率16.3%と例年発生が見られない本県において特異的かつ多い発生である。
- (2) 発生の多い圃場では、既に発病茎率100%で、発病度70と極めて激しい発病であり、発病葉位も下葉に留まらず、既に止葉まで達している(図2)。
- (3) 同病原菌が穂及び止葉を含む上位2葉で多発すると、コムギの蒸散及び呼吸が増加し、光合成が抑制されることから、同化産物の蓄積が悪くなり、減収する。
- (4) コムギうどんこ病は、気温15～22℃が適温であり、春が温暖多雨で早期から繁茂した年に発病が多い。
- (5) 4月22日発表の向こう1カ月の気象予報によると、近畿地方の気温は平年並、降水量は平年並～やや少と予想されており、うどんこ病の発病に適している。

7 防除上の留意点

- (1) 発生を確認したら、速やかに薬剤防除を行う。
- (2) 赤かび病との同時防除が可能であるが、本病は下位葉から上位葉に向けて進展するため、散布量を使用基準内で多めに設定し、株元まで薬剤が届くように、丁寧に散布する。
- (3) 罹病株の残渣やこぼれムギは次作の伝染源となるため、前年に発生した圃場では、特に発生に注意する。
- (4) 本県奨励品種の「ふくほのか」及び「せときらら」はうどんこ病に弱く（育成地の検定）、また「シロガネコムギ」は罹病性であるので、いずれの品種も発生していれば薬剤防除の必要がある。
- (5) 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>



図1 コムギうどんこ病の被害の様子(開花期)



図2 止葉に発生したうどんこ病

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222